

餘縫を率俱して。捨別天野山の陣小池奉う。其本邊派の軍議をすし。
秀吉熟く村重が謀叛の趣意を考慮に。これ本心より發起ふりべ。奸
人諂者の虚妄を添へて。醜也一石為と奏惜せり。いかふもあく。村
重残害せんと二支して。ひ後く練勅れども。村重又は諸老臣。内府の信
義みたを怒り。一圓羽柴が従ら小服せば。依て秀吉又二支し。其本が
脇心代將佐に招き。然して后小村重をも。自然と降服せんとあり。
まげち櫻の城主たる。ある山石近長房へ。其本が股肱の將佐ふして。殊小
智勇の將されば。これを降服をうしめんと方術も遠ふ事ある事あり。
當時美邦耶蘇國す。日本へ渡り。耶宗あつ。そきが導師を伴天
連と称す。諸國を巡回て恩民を憲む。奇怪の術を行ひけり。遠
宗門に歸入へて。秀致ちるのをくあひ。後ふハ歴くの縣令。吏曹
城主國司にひるまで。耶蘇宗門を歸依志ける。信長にも遠由を附し
められ。彼伴天連を召寄らき。奇怪を伝仰すく。なる。秀吉これ
成いさめける。信長にも頗る邪術を悟られ。遠宗をりて。もむるべ
今戦國の時。これを何の用ふ達とも。近づけ延ばと宣ひ。一々
羽柴もこれ小安達して。其後の寢と練めざしが。ある山石近も。や
里。這は天連を深く歸依す。父君の如く。すと代秀吉を傳。所
一かべ。計略成ぬと内府に謁。謀を通じ。固く信長は天連
を留。汝高櫻の城小入く。右近を將佐小隊を。耶蘇宗門を
未承く。日本國小立置づ。倘亦歸依ふ。よどんを。忽地宗門を蒐
え。そん。勢てこれを料理爲れど。と詔意代奉て。道す即伴天連巫
地小も櫻の城小入り。ある山石近に對面す。内府小降服これ以